2010年12月24日(金)産経新聞(朝刊4面)

新関西笑談

めざせ！ハーバード❹

30年後には「世界のカンダイ」人生をうまく送る力教えたい。

関西大学社会安全学部長 河田 惠昭さん

（渡守麻衣撮影）

――そろそろ今年も受験の季節です

河田　偏差値でいうと、10年で京大を抜く勘定になっている（笑）。そして、30年後には「（世界のハーバードではなく）世界のカンダイ」にね。

――それはそれで頑張っていただくとして…。先生があえて、関大をハーバードにという背景には、現在の高等教育への疑問があると思いますが

河田　そうなんだよ。だいたいね、みな「大学、大学」といいますが、本来、高等教育というのは大学院教育のことをさすんだ。学部の4年間で学問の基礎をしっかり学び、大学院で専門を学ぶと。それが本来の高等教育の姿。ハーバードなんてほとんど大学院生。日本の大学は学部生がほとんどでしょ。

――それに近い形を社会安全学部でやろうと

河田　高校でてすぐ専門を選べるわけがない。うちの学部では、社会の危機管理ということで、災害対策のハードの話は工学、ソフトは社会学や法学、経済学。インフルエンザ騒動にみられるような感染症対策には医学など、従来の理系、文系の15学部ぐらいの要素を含んでいる。いわゆる「教養学部」みたいなもの。いろいろなことを「安全・安心」のテーマのもとに横断的にやるから、学問に対する基本的な姿勢をしっかり学ばせる。

――それには教える方もよほどしっかりしないとだめですね

河田　うちの学部では、26人の教員のうち関大の卒業生はひとりしかいない。実力主義で全国から各分野の専門家を集めた。新学部をつくるときは、その大学の中でかき集めて頭数をそろえることをよくやるが、うちは実力主義。ほかの大学が同じようなことをやろうとしても、それほど多くの危機管理の専門家を横断的に集められないだろう。だからすでに日本一だというんだ。

――社会安全学部に送り出す高校の先生も覚悟が必要ですね

河田　今の進路指導の何が悪いというとね、人生における大学進学の意義付けを教えないところだ。受験技術に偏りすぎて、高等教育に進む、もしくはその後の人生をうまく送れるだけの「考える力」をつけさせてない。うちの学部ではそれを一生懸命やろうというわけ。就職難でも活路を見いだせるだけのね。それこそ危機管理だ。女子学生には「男を選ぶのは人生の究極の危機管理。3人以上の男とつきあってから選びなさい」と（笑）。

――…。話をハーバードに戻しますが、学生もハーバードといってもなかなかイメージできないと思いますが

河田　やっぱり現地にいってみせないとと思って、とりあえず成績優秀者から募ろうと考えている。年度優秀者を学部長表彰する。10人ぐらいね。

――ハーバードのサンデル先生を関大に呼んで、それこそ「白熱教室」をやってはどうですか

河田　ぜひやりたいね。いろいろ夢はふくらむ。「今の若い者は」というけれど、若者の感性は素晴らしいから、最大限に生かしてあげる仕組みをつくりたいと思いますね。

（聞き手　北村理）

＝おわり

◇

次回は1月4日、ノンフィクション作家の後藤正治さんです。